

令和6年10月24日  
第14回ギャンブル等依存症対策推進関係者会議

# ギャンブル依存症について 診断・治療と臨床現場から見た 最近の課題

国立病院機構久里浜医療センター精神科 松崎尊信

# 本日の内容

- ✓ ギャンブル依存症とは（診断基準の変遷・治療法）
- ✓ ギャンブルの種類
- ✓ 専門医療機関のギャンブル依存症受診者数
- ✓ オンラインギャンブルの危険性
- ✓ 久里浜医療センターの外来患者のコロナ前後のギャンブル種変化
- ✓ 専門医療機関の拡充、指導者養成研修の充実、相談機関間の連携について

# ギャンブル依存症とは

診断基準の変遷・治療法

# ギャンブル依存症とは

競馬法  
自転車競技法  
モーターボート競走法  
小型自動車競走法



**刑法185条賭博罪**  
偶然の勝負に関し、博戯または賭け事によって財物の得喪を決める行為をする罪

**ギャンブル**

価値のあるものを危険にさらし、より価値のあるものを手にいれる行為<sup>1)</sup>。

**ギャンブル依存症 (Gambling Disorder, ギャンブル行動症)**

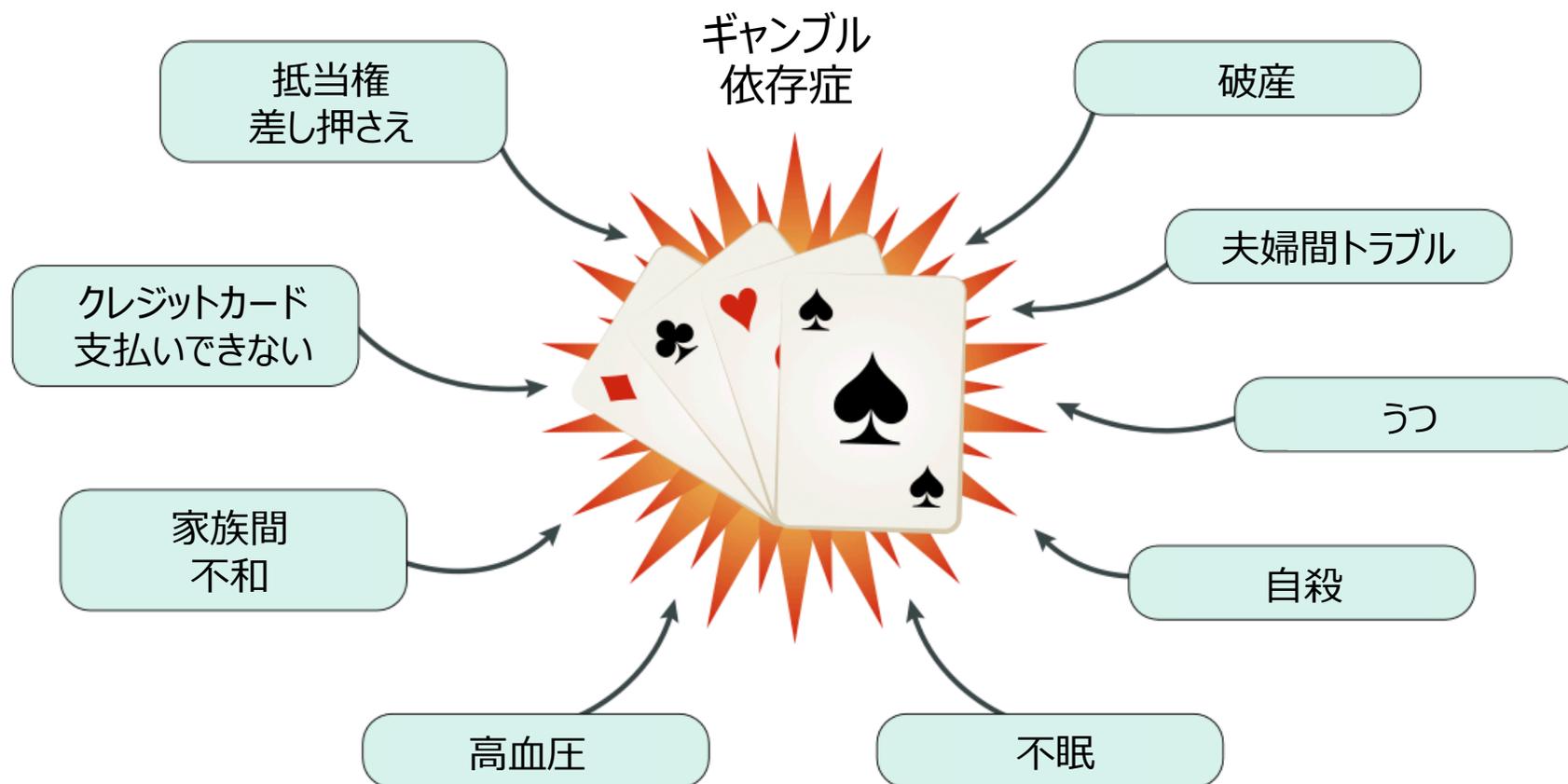
臨床的に意味のある機能障害または苦痛を引き起こすに至る持続的かつ反復性の問題賭博行動<sup>2)</sup>。

1) Potenza, M N et al. "Pathological gambling." *JAMA* vol. 286,2 (2001): 141-4.

2) American Psychiatric Association. *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders* 5th edition (American Psychiatric Association, 2013).

# ギャンブル依存症による生活への影響

経済的、社会的、心身の健康への影響



# ギャンブル依存症の診断①

⋮

F1 精神作用物質使用による精神および行動の障害

依存症

⋮

F6 成人の人格および行動の障害

行動の障害

⋮

F63 習慣および衝動の障害

他の項目に分類不能ないくつかの行動の障害

明らかな合理的動機のない、患者自身および他の人びとの利益を損なう反復的行為

F63.0 病的賭博

社会的、職業的、物質的および家庭的な価値と義務遂行を損なうまでに患者の生活を支配する、**頻回で反復する賭博エピソード**

自分の仕事を危機に陥れ、多額の負債を負い、嘘をついたり法律を犯して金を得たり、負債の支払いを避けたりする

**賭博をしたいという強い衝動を抑えることが困難**

賭博行為や取り巻く状況の観念やイメージが頭から離れなくなる

没頭や衝動は、生活にストレスが多くなると、しばしば増強する

**診断ガイドライン**

(a) 持続的に繰り返される賭博。

(b) 貧困になる、家族関係が損なわれる、そして個人的生活が崩壊するなどの、不利な社会的結果を招くにもかかわらず、持続し、しばしば増強する。

# ギャンブル依存症の診断②

⋮

16 物質関連障害および嗜癖性障害群

物質関連症候群

⋮

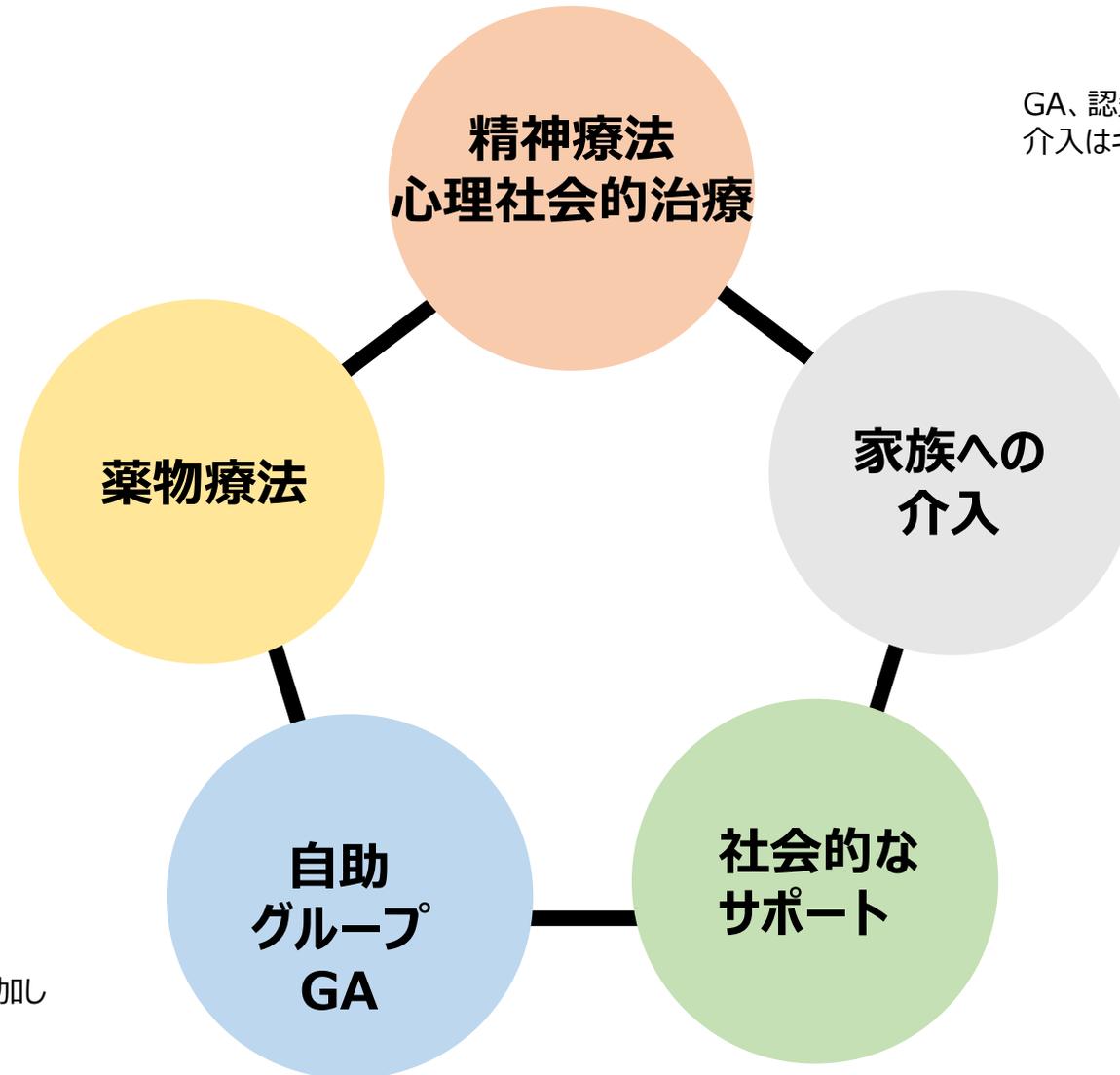
非物質関連症候群

依存症

## ギャンブル障害

- A. 臨床的に意味のある機能障害または苦痛を引き起こすに至る**持続的かつ反復性の問題賭博行動**で、その人が過去12ヶ月間に以下のうち4つ（またはそれ以上）を示している。
- (1) 興奮を得たいがために、賭け金の額を増やして賭博をする要求
  - (2) 賭博をするのを中断したり、または中止したりすると落ち着かなくなる、またはいらだつ
  - (3) 賭博をするのを制限する、減らす、または中止するなどの努力を繰り返し成功しなかったことがある
  - (4) しばしば賭博に心を奪われている
  - (5) **苦痛の気分**のときに、賭博をすることが多い
  - (6) 賭博で金をすった後、別の日にそれを取り戻しに帰ってくる人が多い
  - (7) 賭博へののめり込みを隠すために、**嘘**をつく
  - (8) 賭博のために、重要な人間関係、仕事、教育、または職業上の機会を危険にさらし、または失ったことがある
  - (9) 賭博によって引き起こされた絶望的な経済状況をのがれるために、他人に**金**を出してくれるよう頼む。

# ギャンブル依存症の治療



GA、認知行動療法、動機づけ面接などの心理社会的介入はギャンブルの問題を軽減することができる。<sup>1)</sup>

薬物療法の有効性は研究により異なるため、治療適応となる薬は承認されていない。<sup>1)</sup>ギャンブル問題を抱える人の併存疾患を評価することは、適切な治療アプローチに役立つ可能性がある。<sup>3)</sup>

専門家の治療を受けながらGAに通う患者は、参加しない患者よりもギャンブルを断つ可能性が高い。<sup>2)</sup>

1) Potenza, Marc N et al. "Gambling disorder." Nature reviews. Disease primers vol. 5,1 51. 25 Jul. 2019

2) Hodgins, D. C., Peden, N. & Cassidy, E. The association between comorbidity and outcome in pathological gambling: a prospective follow-up of recent quitters. J. Gambl. Stud. 21, 255-271 (2005).

3) Dowling, N. A., Merkouris, S. S. & Lorains, F. K. Interventions for comorbid problem gambling and psychiatric disorders: advancing a developing field of research. Addict. Behav. 58, 21-30 (2016).

# ギャンブルの種類

# 海外におけるギャンブルの一般的な形態<sup>1)</sup>

- カジノ（テーブルベース、電子ベース）、宝くじ、インターネットギャンブルなど
- インターネットギャンブル、スマートフォンなどによる利用の増加<sup>2)</sup>
- 米国の特定の州ではスポーツ賭博が合法化<sup>3)</sup>

1) Potenza, Marc N et al. "Gambling disorder." *Nature reviews. Disease primers* vol. 5,1 51. 25 Jul. 2019

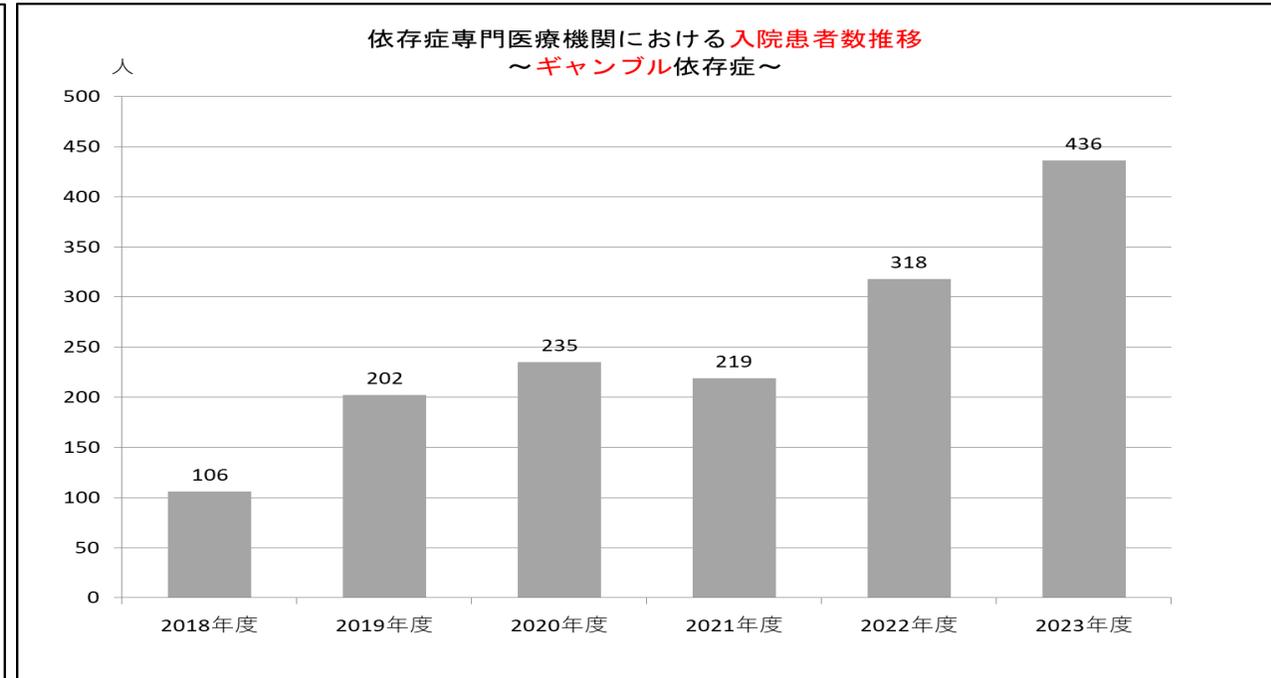
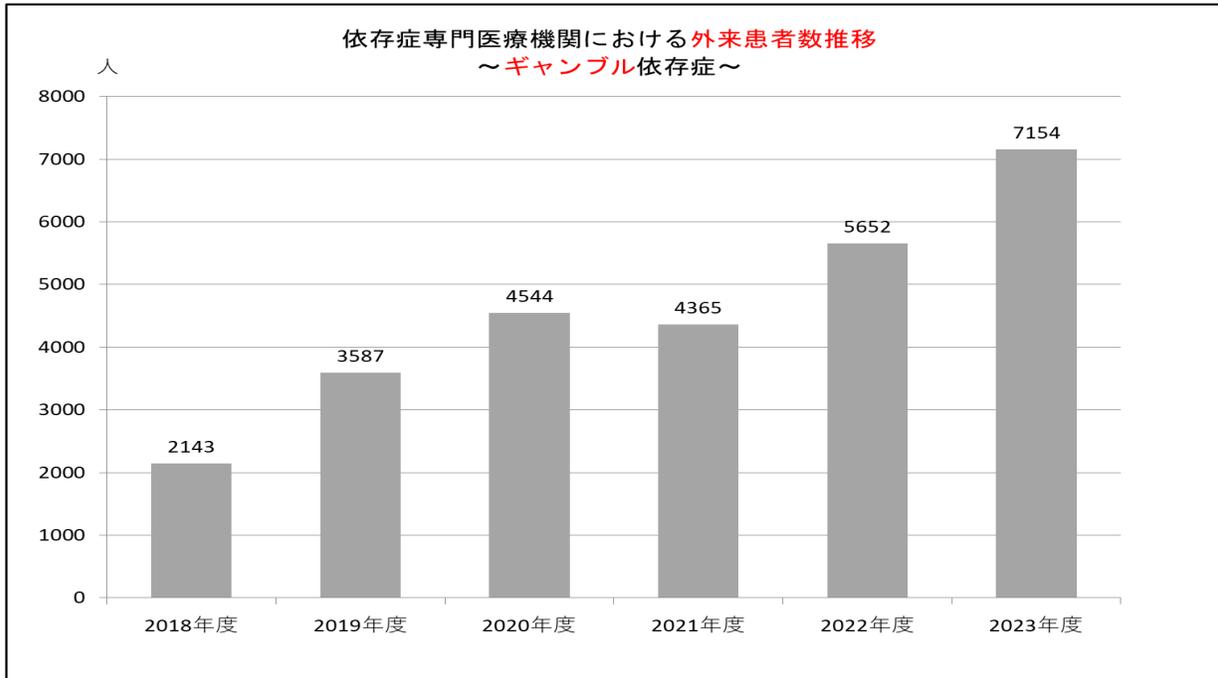
2) Gainsbury, S. *Internet Gambling: Current Research Findings and Implications* (Springer Science & Business Media, 2012).

3) Rodenberg, R. United States of sports betting: an updated map of where every state stands. *ESPN* [http://www.espn.com/chalk/story/\\_/id/19740480/gambling-sports-betting-bill-tracker-all-50-states](http://www.espn.com/chalk/story/_/id/19740480/gambling-sports-betting-bill-tracker-all-50-states) (2019).

# 専門医療機関の ギャンブル依存症受診者数

# 専門医療機関のギャンブル依存症受診者数 (外来・入院)

依存症専門医療機関におけるギャンブル依存症の外来・入院患者は年々増加している。

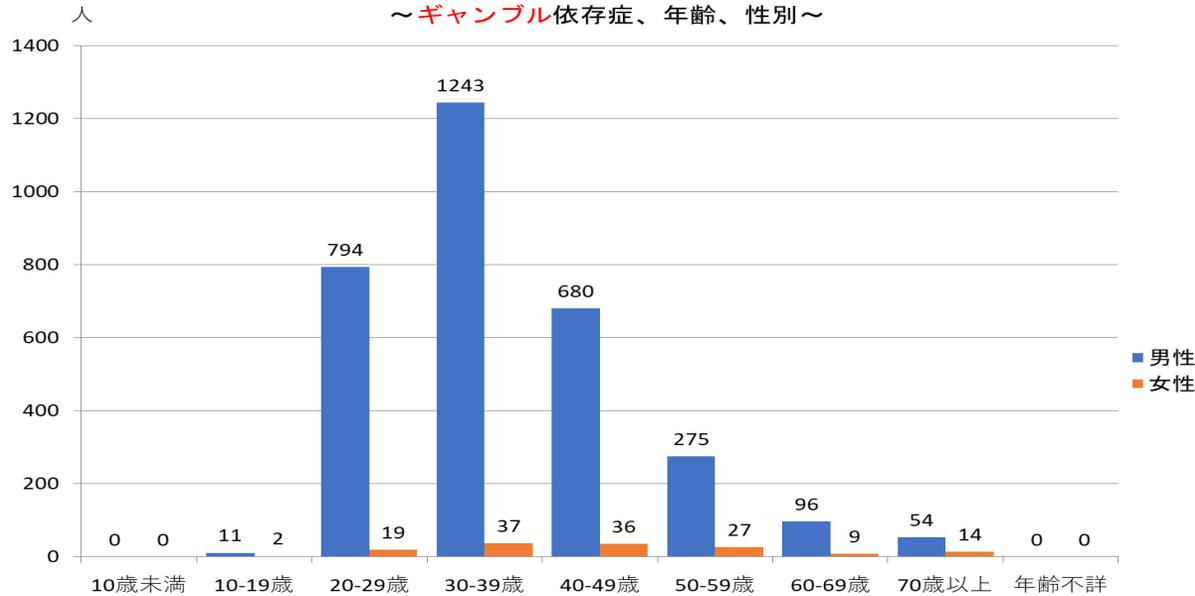


※ 各年度の診療実績報告があった医療機関（括弧内）の集計データ。このため、ギャンブル専門ではない薬物専門医療機関のギャンブル依存症患者数等も含まれる。  
2018年度：（アルコール 93、薬物 59、ギャンブル 46）報告の集計。平成31年3月時点で専門医療機関数はアルコール 90、薬物 35、ギャンブル 29。  
2019年度：（アルコール 157、薬物 94、ギャンブル 80）報告の集計。令和2年3月時点で専門医療機関数はアルコール 158、薬物 61、ギャンブル 65。  
2020年度：（アルコール 190、薬物 117、ギャンブル 98）報告の集計。令和3年3月時点で専門医療機関数はアルコール 188、薬物 75、ギャンブル 84。  
2021年度：（アルコール 207、薬物 123、ギャンブル 107）報告の集計。令和4年3月時点で専門医療機関数はアルコール 198、薬物 119、ギャンブル 103。  
2022年度：（アルコール 228、薬物 141、ギャンブル 123）報告の集計。令和5年3月時点で専門医療機関数はアルコール 217、薬物 136、ギャンブル 117。  
2023年度：（アルコール 238、薬物 150、ギャンブル 133）報告の集計。令和6年3月時点で専門医療機関数はアルコール 227、薬物 145、ギャンブル 127。

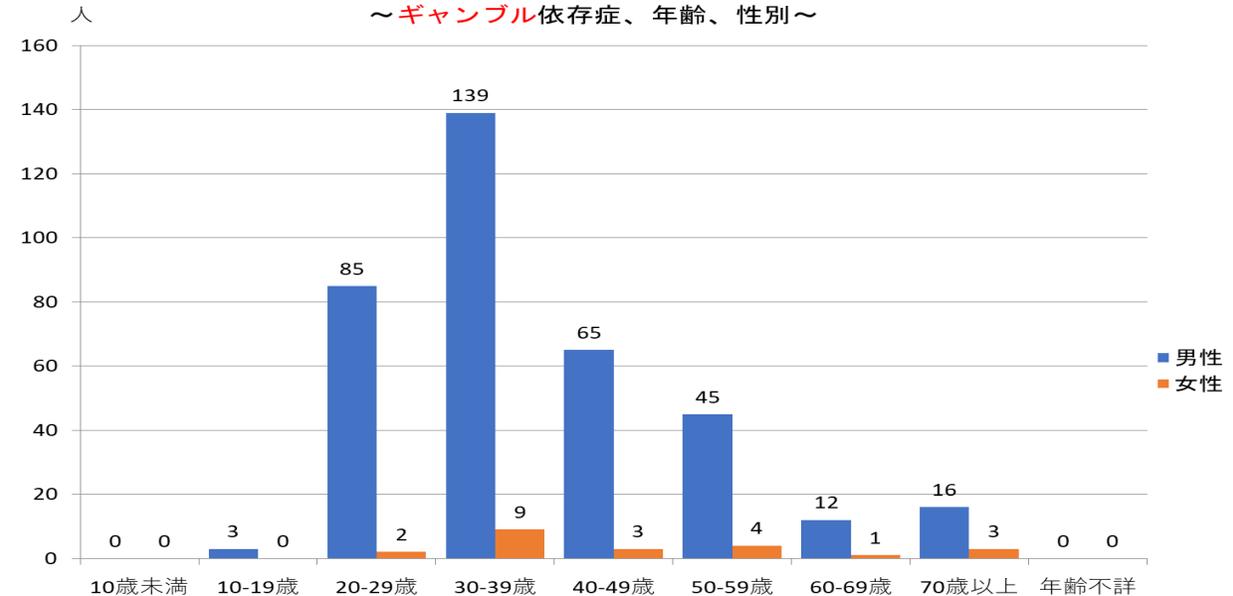
# 専門医療機関のギャンブル依存症受診者数 (2023年度、性・年齢別)

依存症専門医療機関におけるギャンブル依存症の新規外来・入院患者では、20～40代の男性が全体の9割以上を占める

【2023年度】依存症専門医療機関における新規受診患者数  
～ギャンブル依存症、年齢、性別～



【2023年度】依存症専門医療機関における入院患者数  
～ギャンブル依存症、年齢、性別～



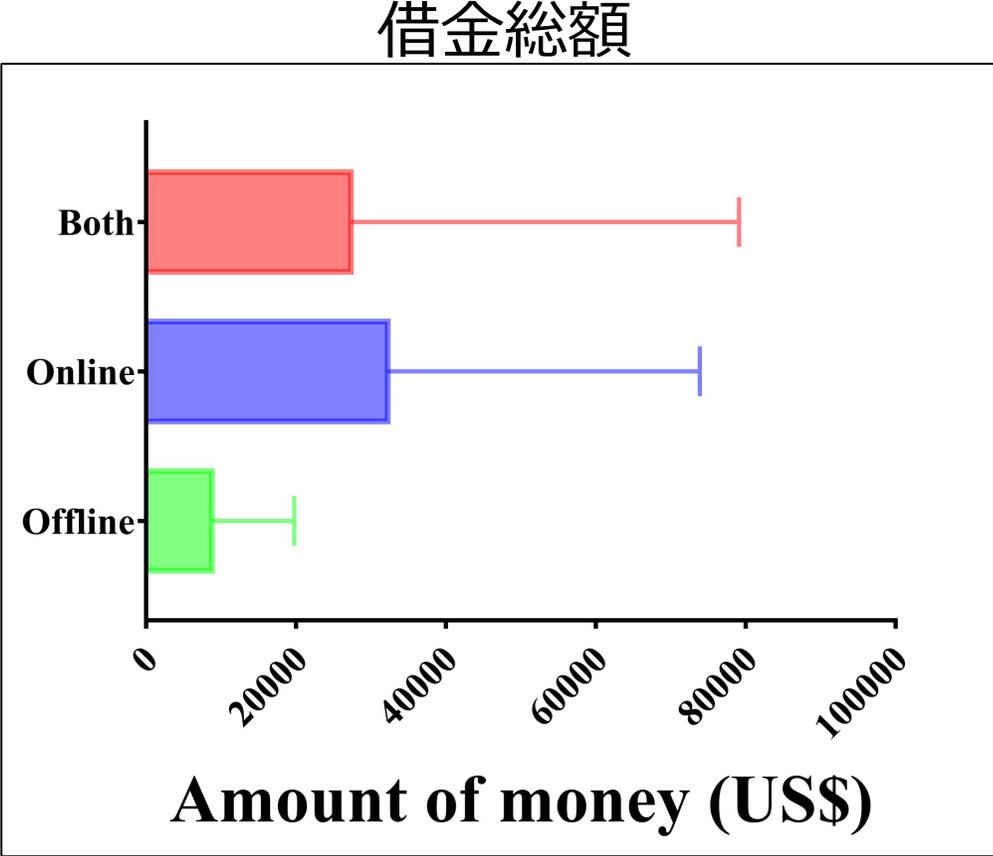
※ 各年度の診療実績報告があった医療機関（括弧内）の集計データ。このため、ギャンブル専門ではない薬物専門医療機関のギャンブル依存症患者数等も含まれる。  
 2018年度：（アルコール 93、薬物 59、ギャンブル 46）報告の集計。平成31年3月時点で専門医療機関数はアルコール 90、薬物 35、ギャンブル 29。  
 2019年度：（アルコール 157、薬物 94、ギャンブル 80）報告の集計。令和2年3月時点で専門医療機関数はアルコール 158、薬物 61、ギャンブル 65。  
 2020年度：（アルコール 190、薬物 117、ギャンブル 98）報告の集計。令和3年3月時点で専門医療機関数はアルコール 188、薬物 75、ギャンブル 84。  
 2021年度：（アルコール 207、薬物 123、ギャンブル 107）報告の集計。令和4年3月時点で専門医療機関数はアルコール 198、薬物 119、ギャンブル 103。  
 2022年度：（アルコール 228、薬物 141、ギャンブル 123）報告の集計。令和5年3月時点で専門医療機関数はアルコール 217、薬物 136、ギャンブル 117。  
 2023年度：（アルコール 238、薬物 150、ギャンブル 133）報告の集計。令和6年3月時点で専門医療機関数はアルコール 227、薬物 145、ギャンブル 127。

# オンラインギャンブルの危険性

# オンラインギャンブルの臨床的特徴

対象：2021年2月8日～9月20日ギャンブル依存症専門治療を行っている20施設を受診した20-65歳の患者183例。  
対象者のギャンブルは、主にオフライン(33.5%)、主にオンライン(42.1%)、オンラインとオフラインの両方(24.4%)であった。  
オンラインギャンブルをする患者は、オフラインギャンブルよりも、

○年齢が若い。○1日でより多くの金を手に入れる。○1日でより多くのお金を失う。○借金総額が多い。○ギャンブルに夢中になる。  
傾向がみられた。



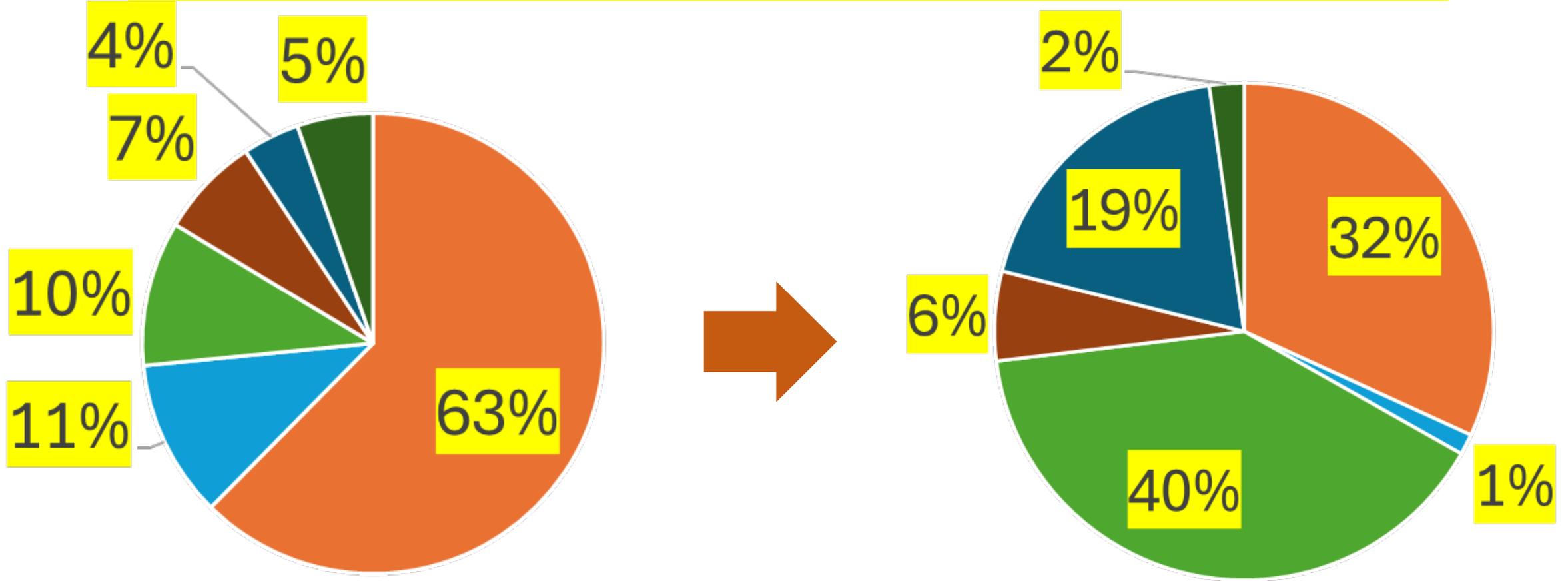
F = 8.7, p < 0.001

Matsushita S, et al, unpublished data

# 久里浜医療センターの外来患者の コロナ前後のギャンブル種変化

# 久里浜医療センター初診時、主に行っているギャンブル

COVID-19パンデミック前後で、初診患者におけるオンラインギャンブルの割合が14%→59%に上昇した。



2017/4～2019/3に当院初診した患者(N = 226)

2022/6～2024/5に当院初診した患者(N = 223)

パチンコパチスロ  
FXなど

公営ランドギャンブル

非合法オンラインギャンブル

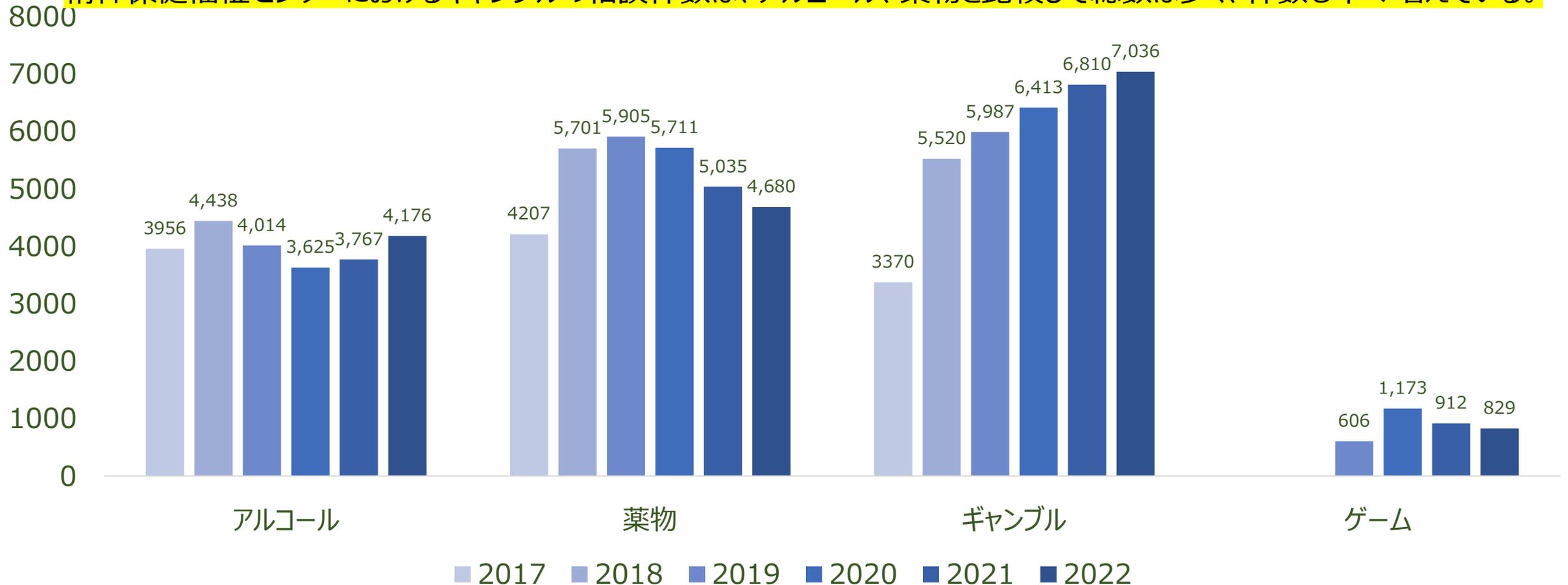
公営オンラインギャンブル

非合法ランドギャンブル

専門医療機関の拡充、  
指導者養成研修の充実、  
相談機関間の連携について

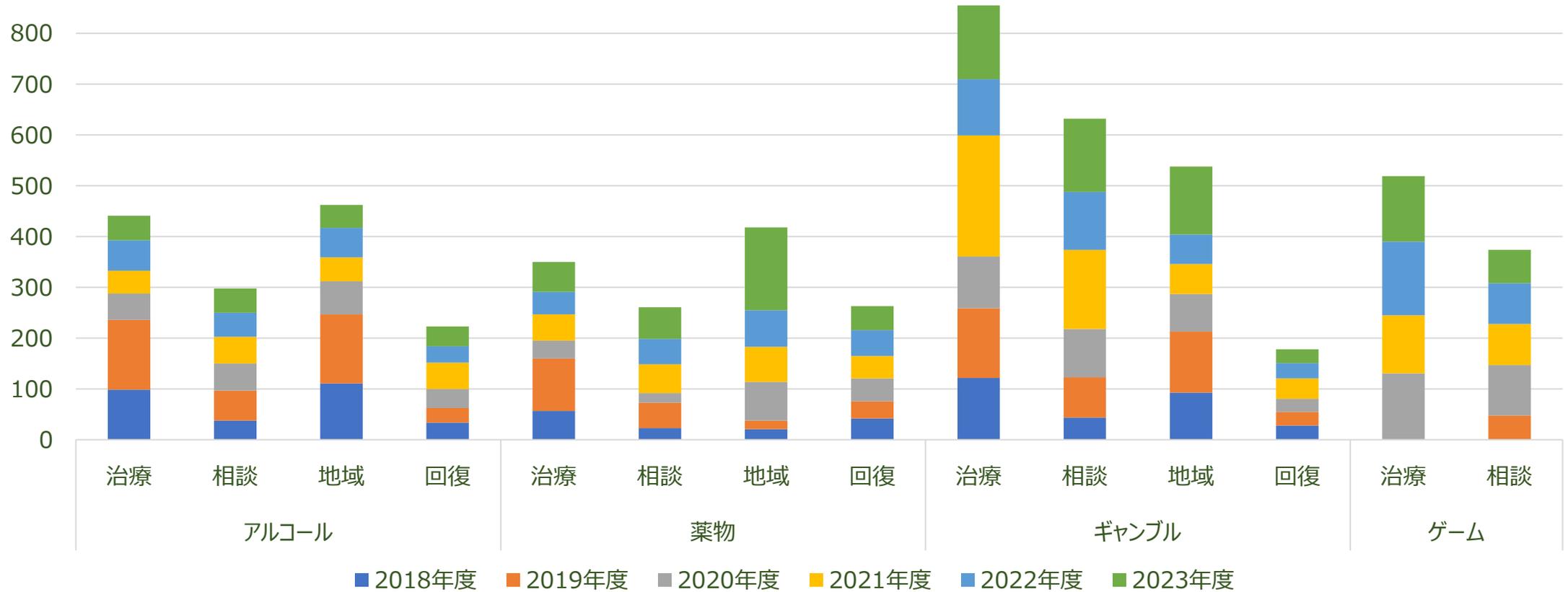
# 各依存症の相談件数 (精神保健福祉センター)

精神保健福祉センターにおけるギャンブルの相談件数は、アルコール、薬物と比較して総数は多く、件数も年々増えている。



# 依存症専門研修の実績、修了者数

依存症専門研修では、アルコール、薬物と比較して、ギャンブルに関する受講者の数（特に、治療、相談、地域）が多い。



- ※ 治療：依存症治療指導者養成研修・・・治療に当たる医療従事者を対象
- ※ 相談：依存症相談対応指導者養成研修・・・精神保健福祉センター等において依存症の相談支援に当たる職員を対象
- ※ 地域：地域生活支援指導者養成研修・・・地域における生活の支援を行う者（障害福祉サービス事業者、相談支援事業者等）を対象
- ※ 回復：回復施設職員研修・・・DARC、マック（アルコール依存症リハビリテーション施設）等の職員を対象
- ※ アルコールの治療・相談研修は年度により、久里浜医療センター、肥前精神医療センター、岡山県立精神科医療センターで実施。近年は肥前精神医療センターが主に実施。薬物研修はすべてNCNPが実施。それ以外は久里浜医療センターで実施。

# まとめ

- ギャンブル依存症の相談・治療件数は年々増えており喫緊の課題である。
- ギャンブル依存症の治療は主に精神療法・認知行動療法が実施されている。
- COVID-19パンデミック後、ギャンブルのオンライン化・非合法化が加速している。
- オンラインギャンブルでは、治療の際にインターネットやスマートフォンの扱いに苦慮するケースが多い。
- 対策として、ギャンブル依存症の相談・治療体制の拡充とともに、事業者を含めた社会全体として予防的措置を講じることが求められる。